

今週
の
みこ
とば

「神と和らぎ、平和を得よ」

(ヨブ記 22章 11節～28節)

「さあ、あなたは神と和らぎ、平和を得よ。そうすればあなたに幸いが来よう。」(22:21)

(ヨハネの福音書 8章 21節～36節)

「あなたがたが来たのは下からであり、わたしが来たのは上からです。あなたがたはこの世の者であり、わたしはこの世の者ではありません。」(8:23)

今日のメッセージ要旨

◎私たちは、誰かと和解できていなければ安らぎはありません。先ず神さまと和解し、そこから他の人との関係も回復されていくのではないのでしょうか？

私たちが平安で安らかな一生を送る秘訣をみ言葉により教えられたい。

◎ヨブ記22章後半で、予期しない試練の中で、自分の潔白を主張したヨブに対し、ヨブの友人の一人エリファズが語ったのです。「神様に立ち返り、神様と和解するように」との勧めです。このエリファズの主張には、因果応報の定義に基づいているのです。ヨブは神様の前に自分や家族の罪のための贖いの供え物を献げていた、神様を恐れ敬う人でした。ヨブには何故このような試練が襲ったのか理解できないことが一番の問題であり、苦しみの原因でした。

◎ヨハネの福音書8章で、イエスは「上」から来られた御方で、「上」とは天、神の領域のこと。人は「下」から来た「この世」の者、「罪の中に死ぬ」者です。この「罪」は一般的な罪ばかりではなく、メシヤとして来られたイエス様を拒絶することで、その結末は「死」です。これは肉体の死のみでなく「魂の死（永遠の滅び）」の意です。イエスは「わたしは去って行きます。あなたがたはわたしを捜すけれども、自分の罪の中で死にます。わたしが行く所に、あなたがたは来ることができません」。イエスご自身が「わたしはある」「神と等しい」存在である。またご自分の「死」についても語られ、イエスは「神と共にあられた御方」で「わたしを遣わした方はわたしとともにおられます。わたしをひとり残されることはありません。わたしがいつも、そのみこころにかなうことを行なうからです」。

◎イエスの死は自殺行為ではなく、神様のご計画と御心に従っての死であり、人をその罪から「贖う」ことにより、人に真の自由を与えるためであるのです。

人は「罪の奴隷」から解放されて「自由」にされるのです。律法から、罪から、死から、悪魔から、この世から自由にされるのです。そればかりか「互いに愛し合う」真の弟子としての歩みに至らせて下さるのです。この主を受け入れよう。

◎コリント人への手紙第二5章には、神の恵みが具体的に示されています。

①「キリストによって新創造される」こと(17)。キリストの出現は、救済史の転換点になり、新しいことが始まったばかりか、個人的においても外側の「古い人」に死に、内側の「新しい人」に生きる者と変えられるのです。ですから「人間的な標準」でキリストを知ろうとせず、また人を知ろうともしないのです。

②「神との和解」を与えられたことです。「和解」とは普通、対等の立場にある者同士の間で成立するものですが、神様の方から提供して下さった恵みなのです。ですから「神の和解を受け入れなさい」と招かれているのです。神様は「罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされ、この方によって神の義となる」救いを成就されたからです。神に罪を悔い改め、赦され、真の救いに与りましょう。